

## VISTA 6 ユーザーレポート

株式会社フジテレビジョン 様

VISTA 6



V2 スタジオのメインコンソールとして VISTA 6 を導入



株式会社フジテレビジョン  
技術局 制作技術センター  
制作技術部 松永 英一

### 後継機の条件

今回更新した V2 スタジオの音声卓は、旧社屋 6st に導入し、台場移転に伴い移設した国産デジタルコントロール・アナログコンソールが入っていました。これは放送卓としてデジタル制御の利便性をいち早く取り入れつつ、信号処理は成熟したアナログ回路を採用し、メーカーと共同開発したコンソールでした。その一方、フジテレビでは究極的な高音質を目指したアナログコンソールを導入したり、後処理のスタジオや送出スタジオにはフルデジタルコンソールを導入することも行ってきました。今回の更新では汎用スタジオである V2 の今後の方向性と



して、番組制作、放送形態が多様化する中、その変化に柔軟に対応でき、常に時代の先端となりえる設備を構築しなくてはならないと考えました。また、増大する入出力の制御、サラウンド放送への対応、VTR や Recorder 等周辺機器のデジタル化及び多チャンネル化への対応、音声調整卓としての自由度、安定性、費用対効果等を考え、フルデジタルコンソールを採用することを決定しました。

### VISTA6 の選択理由

国内外の様々な機種が候補に挙がりましたが、VISTA6 を以下の理由で選択しました。

- 1) 既に納入実績があり、卓としての完成度、安定度（信頼性）が高いこと  
VISTA「6」としては日本国内初の納入でしたが、ほぼ共通のハードウェア/ソフトウェアを持つ D950 や VISTA7 は、既に国内だけでも 20 台以上が納入されており、そのエンドユーザーのほとんどが放送局であるという事実は何にもまして説得力がありました。
- 2) 操作性が良いこと  
とにかくわかりやすく簡単にオペレートできることがとても重要でした。VISTA6 は「直感的に触れられ、ひと目で状態がわかる」点を評価しました。
- 3) デザインが良いこと  
「創作意欲がわくようなデスクデザイン」は大

変重要であると思います。

- 4) 音声卓としての自由度が高く、IN/OUT がフルルーティング可能であり、MTR 収録、5.1 サラウンドにも対応していること。

### まとめ

納入して 10ヶ月が経ちますが、ほぼ毎日朝から深夜まで、他のスタジオと同様に扱われ「普通に」稼働しており、おおむね好評です。5.1 サラウンドの制作環境も整い、今後ますます稼働率が上がることと思います。

